



# 西堀小だより

4月号 令和6年4月8日発行

児童数 345名

新座市西堀 2-18-3

TEL 042 (491) 6671

FAX 042 (495) 8848

【校訓】

禮儀(れいぎ) 質朴(しつぱく) 自治(じち)

【教育目標】

やさしく かしこく たくましく



「できた！わかった！もっとやりたい！」 「明日も学校に行きたい！」

あいさつと笑顔あふれる学校に 校長 鈴木 勝

花の香りのあふれる季節のなかで、子供たちと教職員の新しい出会いが始まり、令和6年度がスタートしました。お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本年度は56名の新入生、3名の転入生を迎え、14学級、345名で、西堀小の145年目が始まります。

地域、保護者とともに歩み、あいさつと笑顔あふれる学校の実現に向けて、教職員のキャッチフレーズ

『Mind -1 Nextage (マインド -ワン ネクステージ)』【心ひとつに次の時代へ】のもと、心をひとつに教職員一同、愛情・熱意と児童理解、使命感をもって全力で取り組んでまいります。今年度も皆様のより一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

## ～令和6年度の学校経営の基本的な考え方～

### 【学校教育目標について】

今年度も学校教育目標『やさしく かしこく たくましく』を受け、「徳・知・体」それぞれがバランスよく成長していく児童になってほしいとの願いをこめて、次のような目指す児童像を掲げ教育活動を推進してまいります。



#### やさしく ⇒ 仲良く 助け合う子

人権を尊重し、お互いを認め励まし合う温かな心、他人を思いやる心を育てます。

#### かしこく ⇒ よく聞き 考える子

自ら考え、判断し、主体的に課題を解決していく能力や態度を育てます。

#### たくましく ⇒ 心と体を きたえる子

自ら健康を保ち、体力づくりに取り組む態度と実践力、根気強さを育てます。

## ②小・中学間の円滑な接続につながります

(中1ギャップの解消)

教科ごとに様々な教員が指導する授業の方式に慣れることで、中学校での学習や生活に順応しやすくなるという効果も期待されています。



校庭の桜

児童は様々な教員と関わりながらそれぞれの指導スタイルに合わせて学ぶ必要が求められます。

中学からは学習内容が広がり授業スピードが上がるため、ついていけなくなるケースも見られますが、小学校のうちから授業スタイルに慣れておくことで、中学入学タイミングでのつまづき解消が期待できます。

## ③教員の負担軽減につながります

専科教員が増えることにより、担任の持ち時数が軽減され、その時間を授業の準備や教材研究・授業研究に充てることが可能となります。時間外勤務を減らすことにもつながります。

ベテラン、若手、さらに一人一人の教員が持つ個性、それぞれの良さを子供たちの教育に活かしていければと考えています。

なお、学年で子供たちを指導していくという視点から、学級だよりをなくし、学年だよりの内容を充実させてまいります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

### 【目指す学校像】

地域、保護者とともに歩み、あいさつと笑顔あふれる学校

全教職員が『Mind -1』心ひとつに当事者意識をもって、自分の役割を果たします。

### 【目指す教師像】

児童の自己肯定感を高める教師

『We Only Do Positive!』(私たちはポジティブな働きかけしかしません)の理念を生かし、日常生活の中で「3秒の誉め言葉」を励行します。

### 【目指す授業像】

誰一人取り残すことなく、児童の可能性を引き出す授業

児童の活動する時間を確保するため、教師の説明をできるだけ少なくします。また、課題解決、探求的な学習形態を取り入れていきます。

## 【学級経営から学年経営へ 意識の改革】

### 【専科教員の加配 少人数指導の充実】

学びは多くの人との関わりの中で育まれていきます。明治以降約150年間、小学校は学級担任という仕組みが一般的でした。本校においても基本的には教育活動を行う単位は学級です。一人の担任が1学級の児童を1年間担当する仕組みは変わりませんが、先生方には、二人の学級担任で2学級の児童を指導する、つまり学年経営の意識をもって指導に当たるようお願いしました。

また、今年度は専科の教員が1名増えました。中学校のように完全に教科担任制とまではいきませんが、3年生以上は担任ではない専科の教員が指導する教科が増え、より多くの教員で児童を指導していく環境が整いました。

さらに、本校の特色でもある3年生以上の算数少人数指導(2学級の児童を3つの学級に分けて指導)を継続し、指導の充実を図ってまいります。



## 【期待される効果】

### ①多くの教員が関わることで多面的な児童理解につながります

一人の児童に多くの教員が関わるようになることで、児童にとっては相談できる先生が増えます。様々な教員から褒められる機会が増えることにより、自己肯定感が高まり、心の安定につながります。

教員側も、他の教員と情報共有する機会が増えることで児童を多面的に理解することができ、多様な個性を伸ばすことにもつながります。仮に問題行動を起こす児童がいても複数の教員が関わることで担任が抱え込むような状況にはならず、解決の糸口をつかみやすくなります。